

1 次の —— 線部の漢字をひらがなに、カタカナを漢字に直しなさい。

- (1) 大臣がアジア諸国を歴訪する。
- (2) 綿密な計画を立てて城を修復する。
- (3) 姉は祖母に洋裁を習っている。
- (4) 縦書きのノートに詩をつづる。
- (5) 消防隊員が尊い人命を救った。
- (6) 山の頂に立ってガンカを望む。
- (7) 会場にテンジされた絵画を見てまわる。
- (8) 漢字テストがスんでほっとした。
- (9) 英語の歌詞を日本語にヤクす。
- (10) 水族館でイルカのチュウガエリを見た。

2 次の(1)～(3)の小噺(こばなし)(笑い話)を読んで、( )に入る「オチ」のせりふ

として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

(1)

「道端に鏡が落ちていたから拾って帰ろうと思ったんだけど、やめたんだ」

「どうしてだい？」

「だって、( )」

- ア 落とし主が戻ってくるかもしれないから
- イ 知り合いに見られたらいやだから
- ウ 下から人がのぞいていたから
- エ きれいじゃなかったから

(2)

「私の故郷は冬が大変厳しく、話をしている、しゃべった言葉が全部凍りついてしまうのです。」

「それでは春は( )。」

- ア 待ち遠しいでしょうなあ
- イ うれしいでしょうなあ
- ウ 暑いでしょうなあ
- エ やかましいでしょうなあ

(3)

「ちよつと二階の電気点いているか見てきてくれない？」

( ) ( ) よくわからなかったよ」

- ア 暗かったから
- イ 二階がどこなのか
- ウ 何を言っているのか
- エ 階段が見つからなくて

3 次の —— 線部を、誰にでも通じる表現に書きかえなさい。

- (1) 試験の成績がよくて、めっちゃうれしかった。
- (2) その提案は、マジでおかしいと思います。
- (3) こんなことになるなんて、ヤバくないですか。
- (4) しっかり勉強しているので全然大丈夫です。
- (5) 彼のわがままな態度がムカつく。

④ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。答えをぬき出す問題は、句読点も字数にふくみます。

「①すみません」

勇気を振り絞り、窓の所で四角い氷を機械で削っているおじさんに声をかけた。でも、周りが騒がしくて聞こえなかったのか、無視されてしまう。

「②すみません！」

二度目は、声を強くした。ようやくおじさんが、できたての氷の山に透明なシロップをかけながら私の方を見てくれる。けれど、その先の言葉が繋がらない。私はみるみる泣きたくなった。ただ、バーバにかき氷を食べさせたいだけなのに。どうしてこんなに悲しくなってしまうのだろう。けれど、早く言え、と何かが私の背中を強い力で前に押ししてくれたのだ。

「バーバが、いえ祖母が、もうすぐ死にそうなんです。それで最後に、ここのかき氷を食べたいって」

ぐっと ① を噛みしめ、涙の落下を食い止める。一瞬、音という音が世界から消えた。どうしてこんなことを口走ったのか、自分でもよくわからなかった。ママとの会話でも、ずっと気をつけて避けて通ってきた、③「文字の単語」それが口をついて出たことに、自分でも驚いてしまう。

「ちよっと待ってて」

子供の言葉など相手にしてくれないかと注<sup>1</sup>懸念<sup>けねん</sup>していたのに、おじさんはぶつきらぼうにそう言うのと、またくるくると機械のレバーを回し始めた。目の前のカップに、白い氷の山ができていく。私は、ポケットから小銭を取り出した。かき氷一杯は買える。おじさんは、氷の小山の上から、透明なシロップをうやうやしくかけた。それを、クーラーボックスの中に入れてくれる。

「ありがとうございます！」

お金を払い、深々と頭を下げて、その場を立ち去った。

帰り道は、④ますますスピードを上げて自転車を走らせる。クーラーボックスの中の小さな富士山が溶け出す前に、どうしてもバーバに届けなくてはならない。「ただいま。バーバ、富士山、持ってきたよ」

ホームに戻ると、またカーテンが閉じていて、部屋全体が<sup>あめ</sup>飴色に見える。クーラーボックスから、急いでかき氷を取り出した。

⑤ ② 全部溶けてしまっただけで、きちんと富士山の形を留めている。私は、ママにかき氷を手渡した。

「まはーなちゃん、あーん」

ママはそう言いながら、バーバの口元に木製のスプーンを差し出す。バーバのくちびるは、うっすらと開いている。けれど、スプーンが滑り込めるほどの隙間はない。

「マユが、一人で買いに行ってくれたんですよ」

ママの瞳から、つるんと一粒の涙が落ちる。やがてバーバは、何かを言いかけるように上下のくちびるを広げると、スプーンを受け入れた。

「おいしいでしょう？」

⑥ ママの声が湿っている。二度、三度と、バーバはスプーンの上のかき氷を吸い込んだ。そのたびに、目を閉じてうっとりとした表情を浮かべる。

私は確信する。⑦ バーバは今、数年前の夏の日、家族で行ったかき氷店のあの庭に帰っている。ごくり、と喉が鳴って、富士山の一部が、バーバの体の奥に染み込んでいく。私は窓辺に移動して、カーテンをかきわけ外を見た。富士山が、オレンジ色に光っている。すると、マユ、とママが呼ぶ。

振り向くと、ほら、バーバがマユにも食べさせたいって、と、私を手招いている。驚いたことに、バーバは自分で木のスプーンを持っている。

近づくと、私の口にかき氷を含ませてくれた。同じように、ママの口にもかき氷を含ませてくれる。ママは明らかに、⑧ 私よりも年下の少女の顔に戻っていた。

「おいしいねえ」

舌の上のかき氷は、まるで冷たい綿のようだ。さーっと溶けて、消えてなくなる。体のすみずみにまで、3 風が吹き抜ける。

——小川糸『あつあつを召し上がれ』より

(注) 1 懸念——気にかかって不安になること。

2 はーなちゃん——マユのママは認知症になったバーバのことを「はなちゃん」と呼んでいる。

問1 ——線部①と②では同じ「すみません」という言葉が使われています。

②に「！」が付け加えられている理由として適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア マユの必死さを文字で表現するため。

イ マユの言葉であるということを強調するため。

ウ かき氷屋のおじさんの驚きを表現するため。

エ 大きな声だということを表現するため。

オ けんか腰であることを表すため。

問2 1 に入れるのに適切な体の部位を答えなさい。

問3 ——線部③「一文字の単語」とは、何だと考えられますか。漢字一字で答えなさい。

問4 ——線部④「ますますスピードを上げて自転車を走らせる」のはなぜですか。三十文字以内で答えなさい。

問5 2 に入る、——線部⑤「たら」に対応するようなひらがな二字を

答えなさい。

問6 ——線部⑥「ママの声が湿っている」とはママのどのような様子を表していますか。簡潔に答えなさい。

問7 ——線部⑦「バーバは今、数年前の夏の日、家族で行ったかき氷店のあの庭に帰っている」とはどういうことか、次から選び、記号で答えなさい。

ア もう現在のマユやママのことを忘れてしまったのだということ。

イ 家族でかき氷店に行った日のことを鮮明に思い出しているということ。

ウ マユたちとまた一緒にかき氷店に行きたいと思っているということ。

エ 今ここから見えている庭とかき氷店の庭を見比べているということ。

問8 ——線部⑧「私よりも年下の少女の顔に戻っていた」とはどういうこと3かについて説明した次の文の に当てはまる言葉を答えなさい。

バーバからかき氷を食べさせてもらったことで、マユの母親ではなくバーバの の表情になっているということ。

問9 3 に入る語を次から選び、記号で答えなさい。

ア 爽やかな    イ 湿った    ウ 大げさな    エ 強い

5 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。答えをぬき出す問題は、句読点も字数にふくみます。

薬学部で私が配属された当時、研究室を統括されていた齋藤洋教授は、嘔吐の研究で国際的な知名度を誇っていました。理由は「嘔吐する小型動物」を発見したからです。この意味がわかるでしょうか。これはとても画期的なことだったのです。

ヒトは乗り物酔いや食中毒などではしばしば吐きます。ペットを飼っていた人ならば知っていると思いますが、イヌやネコもまたヒトと同じように吐きます。

1 研究者がよく使う実験動物であるネズミやウサギはけっして吐きません。吐くための脳回路が備わっていないからです。要するに注1 制吐薬や吐き止め薬の研究にはラットやマウスが使えないわけです。

2 嘔吐の研究にはイヌやネコ（ときにはヒト）を実験台として使わなければなりません。これは①デメリットです。イヌやネコはネズミよりも大型の動物ですから大規模な飼育施設が必要ですし、そもそも一日に何匹（何人）も検査することができません。また効能を調べたい試薬や薬物も、多くの量が必要になります。つまり、嘔吐の研究の現場では注2 ③「が必要とされていたのです。

そんな中、齋藤教授は当時、「スunks」とよばれる体長一五センチメートルほどの小型の動物（南日本から台湾にかけて生息するモグラの一種）を用いての肝臓の研究をしていました。ある日教授は、注2 肝硬変がいかに生じるのかを調べるために、スunksにアルコールを投与しました。するとスunksが吐いたので、驚いた教授は周囲に「スunksは吐くぞー」と②興奮しながら言いました。すると周囲の人々は「何を今さら」と言った表情で「そりゃ、そうですよ」と平然と答えたそうです。

このとき③齋藤教授と周囲の研究者の違いはなんだったのでしょうか。そうです。齋藤教授は「問題意識」をもっていたのです。嘔吐の研究には今どんな問題があ

って、何が望まれているのかを知っていたのです。一方、周囲の研究者たちはこれまでにも何度かスunksが嘔吐する様子を見てきたにもかかわらず、それが嘔吐研究にどれほど重要な意味があるのかを理解していなかったのです。その後、スunksが国際的な実験動物となって嘔吐研究に貢献したのは言うまでもありません。

「発見」とは単に「初めて見る」という意味ではありません。「ただ見る」だけでは発見ではありません。目の前に見えている事実の重要性に気づいてこそ「発見」なのです。

重要性に気づくためには「問題意識」をもっていなければなりません。一体、自分は何を知りたいのか、世間が何を欲しているのか、何がまだ解明されていないのか、どんな事実がわかればその後どんな道が開けるのか。こうした問題意識をもっていなければ発見はありえません。

その一方で、発見が「偶然」に支えられていることも多々あります。齋藤教授もスunksにアルコールを投与するという実験を偶然に行ったからこそ、大発見が訪れたのです。しかし、この発見が「単なる偶然」ではなかったことは、周囲の平凡な研究者が同じ事実をみていたのに「発見」できなかったことが物語っています。

発見や発明のアイデアは神様が与えてくれるものではありません。むしろ、それまでにどれほど努力と勉強を重ねてきたかにかかっています。科学者はこれを「セレンディピティー」とよびます。思いがけない発見をする才能。単なる偶然ではなく、訪れた幸運を自分のものにできる能力。発見は周到に準備した者だけに訪れる——④絶対に忘れてはならない研究者の注3 戒めです。

——池谷裕二『薬の開発のために脳をきわめる』より

（出題者による省略あり）

(注) 1 制吐薬——嘔吐を抑えるための薬。

2 肝硬変——肝臓内に線維組織が増え、肝臓が硬くなる病気。

3 戒め——間違いをしないように注意すること。

問1 [1] [2] に当てはまる言葉を次から選び、記号で答えなさい。

- ア なぜなら イ 一方 ウ たとえば エ そこで

問2 ——線部①「デメリット」とありますが、具体的にどんなことが「デメリット」なのか、三つ答えなさい。

問3 [3] に当てはまる言葉を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 小型で嘔吐する動物 イ 小型で嘔吐しない動物
ウ 大型で嘔吐する動物 エ 大型で嘔吐しない動物

問4 ——線部②「興奮しながら」とありますが、なぜ齋藤教授は興奮したのですか。次から選び、記号で答えなさい。

- ア 実際にシンクスが吐くところを初めて見たから。
イ ヒトの肝硬変が起こる仕組みがわかったから。
ウ シンクスを肝臓の研究で初めて使ったから。
エ 嘔吐の研究に適任な動物を見つけたから。

問5 ——線部③「齋藤教授と周囲の研究者の違いはなんだったでしょうか」とありますが、その答えとなる次の文の空欄に当てはまる言葉を本文からぬき出しなさい。

齋藤教授には [ ] があつたが、周囲の研究者にはそれがなかったこと。

問6 ——線部④「絶対に忘れてはならない研究者の戒め」とありますが、筆者が言っている「戒め」として適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 「偶然」が訪れるまで努力や勉学を惜しまないこと。
イ 「偶然」が訪れるまで何度もチャレンジすること。
ウ 周囲の人々と「問題意識」を共有すること。
エ どんな「発見」にも意味があると思えること。

問7 この文章の後半をノートにまとめた。そのノートの空欄に当てはまる言葉を本文からぬき出しなさい。

「発見」※ [1] 「ただ見る」
「発見」|| 目の前の事実の [2] に気づく
← そのためには
「問題意識」をもつ
[3]
|| 思いがけない発見をする才能
単なる偶然ではなく、訪れた幸運を自分のもののできる能力

6 次のア～ウの中からテーマを一つ選び、条件にしたがって文章を書きなさい。

ア 「流行語について」

テーマ イ 「思い出の食べ物について」

ウ 「開発されてほしい薬について」

① 氏名や題名は書かず、本文から書き始めること。

② 二段落構成で書き、一段目にはテーマに関する自分の体験を、二段落目にはそれについての思いや意見を書く。

③ 二百六十字以上、三百字以内で書く。